

～横須賀市の学校教育～

輝け！よこすかの子どもたち

「人間性豊かな子ども」を育む

体力づくり研究委託校 元気タイム（明浜小）



全国中学生創造ものづくり教育フェア
あなたのためのおべんとうコンクール
全国優勝（長沢中）



吹奏楽部 東関東アンサンブルコンテスト出場（鴨居中学校）



小学生と中学生の交流（池上小・池上中）



初任者研修 研究授業（田浦中）



道徳 研究授業（武山小）



P 1～2 ―― 小学校と中学校をつなぎ、9年間を一体と捉えた教育をすすめます！

P 3～4 ―― 平成26年度 横須賀市教育フォーラム開催

～横須賀の子どもたちを みんなの力をあわせて育てよう～

P 5～6 ―― 子どもたちの体力を高めます

～ 横須賀の子どもたちの体力テストの結果が向上！～

P 7 ――― より良い学校とするために

～ 学校評価の取組～

2015年3月
第7号



小学校と中学校をつなぎ、9年間で一体と捉えた教育をすすめます！

横須賀市では、平成 23 年度から 4 つの中学校ブロック【常葉中ブロック、岩戸中ブロック、北下浦中ブロック、長井中ブロック】に、小中一貫教育に関する研究を委託しています。これまでの研究から、先生方は「小学校は 6 年間、中学校は 3 年間でそれぞれ子どもを育てる」という意識から「9 年間で小中学校が一緒になって子どもを育てる」という意識へと変容してきています。

研究を委託した学校では、小中合同のレク大会を計画したり、中学校の学習発表会に 6 年生が一緒に参加をしたり、同じ中学校に進学する小学生同士と一緒に活動する行事を企画するなど、小中学校の先生方が協働して、行事を計画し、運営する姿も見られるようになってきています。また、中学校入学前に、小学生が直接中学校に出向き、授業や部活動の様子を見学したり体験したりするなど、中学校の様子を知ることや中学生に接する場面の設定も行われています。

各学校で行われている校内研究授業等を活用して、小中の先生方が、お互いに授業を参観し、一緒に研究協議をすることも行われています。各教科に分かれて、具体的な子どもたちの姿を通して、協議を深め、子どもたちの学びの様子や授業についての意見交換が活発に行われるようになってきています。

これらの取組を通して、小中がそれぞれ大切にしている児童生徒指導を直接肌で感じることができ、発達
の段階に応じた指導についての理解が深まっています。また、子どもたちは、お互いの交流を通して、小学
生は、中学校に進学する際の中学校生活や新しい仲間と出会うことへの不安が解消されたり、中学生にとっ
ては、自分の成長を感じて自尊感情が高揚し、意欲的な行動につながったりするなど、それぞれにとって、
価値のある活動として、位置付けられています。

長井中ブロック(長井小・長井中)



中学校の学習
発表会に小学
6 年生が参加
しました。



小中 9 年間で育てることを意識しています！

岩戸中ブロック(岩戸小・岩戸中)



小学校 6 年生が
中学校の授業見
学と部活動体験
を行いました。

常葉中ブロック(諏訪小・田戸小・常葉中)



中学校の研究授業に
小学校の先生方が参
加して、授業を参観し
ています。

授業を参観し
た後、教科ごと
に先生方が集
まり研究協議
をしています。

北下浦中ブロック

(北下浦小・津久井小・北下浦中)



さまざまな小学校・中学校の取組

馬堀中・馬堀小・走水小・望洋小

小中一貫教育の研究を委託した4つの中学校ブロックの実践をもとに、横須賀市全体で小中学校が一緒になって、各中学校区の子どもたちを育てていく取組を推進していきます。

各学校では、子どもたちの豊かな学びを実現するために、小中学校の先生方がお互いの学校の様子を理解したり、子ども同士が交流したりして、9年間で中学校区の子どもを育てていこうという取組が行われています。



4つの小中学校では、「まぼりのすべての子どもたちの幸せのために連携しよう」をスローガンに、馬堀中学校区の先生方がお互いの学校の様子を理解するための合同研修会を開催しています。この日は横須賀スタンダード*をもとに、各小学校の取組と中学校の取組についてグループに分かれて意見交換が行われました。

馬堀小学校の児童が馬堀中学校を訪問し、中学生と一緒に体育のサッカーの授業を交流しました。小学生は児童ボール大会を控え、より専門的な指導を受けました。また、中学生の積極的な声かけに応えられるようになり、中学生のあいさつや集団行動に驚かされたようです。中学生にとっても、来年度の後輩たちの姿を見ることで、先輩としての自覚が芽生えてきたようです。



*市教育委員会と市立小学校長会で、子どもたちが社会生活で身に付けておいてほしいこととして明文化したものです。

浦賀中・大塚台小

浦賀中学校と大塚台小学校では、小中学校3名ずつの先生方が、それぞれの学校の1日体験を行いました。お互いの授業を実際に参観して、子どもたちの学習がどのように進められているのかを知り、授業づくりについて、意見交換したり、児童生徒指導についても、どのように行われているのかを理解し合ったりしました。小中学校のつながりを深めるために、今後どのように取組を進めていくのかを検討しています。



池上中・池上小

池上小学校と池上中学校では、小学1年生と中学3年生が交流を行っています。ボールやカルタなどを使った活動をしたり、本の読み聞かせを中学生が行ったりします。小学生は中学生にあこがれると同時に、中学生の自己有用感も高まります。



平成26年度横須賀市教育フォーラム開催

横須賀市が「学力向上プロジェクト協議会」から頂いた『確かな学力』の育成に向けた10の提言の実現のために、1月24日（土）横須賀総合高校において、横須賀市教育フォーラムを初めて開催しました。

市立学校の保護者、地域の方々を中心に、学校関係者など約100名の参加があり、SEAホールでの全体会の後、3つの分科会に分かれて話し合いました。

全体会で横須賀市の学力の状況を説明

昨年までは、学校を中心とした横須賀市学力向上シンポジウムを開催していましたが、本年度は、市民の皆様に横須賀の学力の状況や学力向上の取組への理解を深めていただき、学校・家庭・地域のそれぞれが、役割を考え実行できることを願って、この教育フォーラムを開催しました。

『確かな学力』の育成に向けた10の提言

- 提言1・・・学力向上のPDCAサイクルの確立を図る
- 提言2・・・学ぶ意欲を高める学習環境づくりに努める
- 提言3・・・「確かな学力」の育成を図る授業づくりをする
- 提言4・・・家庭学習の充実を図る
- 提言5・・・学力向上を視点においた校内研修や研究を充実させる
- 提言6・・・個に応じた指導の充実を図る
- 提言7・・・規律・規則正しい生活が送れる環境づくりをする
- 提言8・・・家庭学習の習慣化を図る
- 提言9・・・安全・安心な生活の基盤を築く
- 提言10・・・地域体験活動を充実させる

10の提言のうち、
1～6は学校で
取り組むこと、
7～10が家庭・
地域で取り組む
ことです。



第一分科会 基本的生活習慣の確立

幼稚園・保育所や小中学校の関係者、保護者・地域の方の参加の中、保育所や小学校からの話題提供の後、グループで意見交換が行われました。

- ・夜、遅い時間の外食など、親の生活に子どもを巻き込んでいるのではないか。
- ・子どもは、自分で生活リズムが作れないため、大人が共に作らないといけない。
- ・幼児期の体内時計づくりを意識して、保育所では一日のプログラムを作っている。
- ・睡眠は子どもの心を落ち着かせる効果がある。
- ・小学校では、給食だよりや保健だよりを通して、保護者へ啓発をしている。
- ・幼児は午後9時までに就寝させることが大切であることを理解していない親がいるのではないか。
- ・早寝、早起きは子どものためと思っているが、仕事など親のおかれている環境もあり、現実では、難しいこともあるのではないか。

朝食・睡眠の大切さを
再認識できた。



様々な立場の人の話が
聞けてよかった。

安心して子育て
できる環境を！

子どもの生活に
目を向ける必要
がある。

社会環境等にも話が進みましたが、基本的生活習慣の中で、「早寝・早起き・朝ごはん」の大切さを確認できました！！

第二分科会 家庭学習のあり方

「子どものより良い成長を促すための学習習慣づくり」というテーマで、横須賀市学力向上推進委員会委員長の吉田豊香先生の講演を中心とした座談会が行われました。

吉田先生から、市教育委員会発行の家庭学習啓発リーフレット（就学前版）を使って、「幼児期の遊びの必要性」「読み聞かせで育つ力」「語彙量と学力の関係」「言葉を大切にする家庭教育」「褒め上手・叱り上手な大人」についてお話があり、本を読むことのよさや挨拶・早起きについてグループで話し合いました。

その後、話し合いを受けて、吉田先生から子どものより良い成長を促すために、次のようなまとめがありました。

- ・本を読むことは、子どもと時間を共有することである。
- ・親や学校が、子どものために時間をつくる必要がある。
- ・心して子どもに向かってあげることが大切である。
- ・子どもの起こし方も、気持ちよく送り出すことも大切である。
- ・前の日に子どもを叱っても、朝の挨拶や朝ごはん、それをリセットする。
- ・リーフレットを家族みんなでチェックし、できていることを認めてあげることが大切である。



自分の言動を
考えさせられた。

リーフレットを
どうやって使ったら
よいかわかった。

共感の大切さが
わかった。

もっとたくさんの
人に聞いてほしか
った。

読み聞かせの
大切さを感じた。

第三分科会 学校と地域の連携

「子どもの生きる力を育むために、地域の力でできること」をテーマに、グループ協議が行われ、学校と地域がそれぞれの役割を再確認しながら、お互いに支え合う関係の大切さを確認できました。グループ協議は、「体験活動・学習する場について」「安全・安心に生活できる地域づくりについて」「地域とのつながりについて」の3つに分かれて行われ、各地域の取組の情報を共有し合い、今後につなげられる意見交流ができ、今後の方向性を考える良い機会となりました。



地域行事に対する
考え方が変わった。

町内会のパワーを
感じた。

話し合ったことが
実現できるとよい。

子育ては、学校だけで
なく、家庭と地域で
するのだと思った。

課題はたくさんあるが、
できること・身近なこと
から行動したい。

学校は地域に頼ってよい
という言葉もらった。

初めての開催でしたが、おかげ
さまで、有意義な会となりました。
当日、ご参加いただきました皆様、
ありがとうございます。

次年度は、地域ごとに教育フォー
ラムの開催を予定しています。
多くの方の参加を
お待ちしております。



子どもたちの体力を高めます

学校・家庭・地域社会が一体となって児童生徒の体力づくりを一層促進するために「横須賀市体力づくり実践研究発表大会」を行いました。

各市立学校の教職員をはじめ、地域指導者や市社会体育団体指導者、PTAなど、約100名が参加する中、研究委託校である明浜小学校、久里浜中学校の実践や横須賀市児童生徒健康・体力向上推進委員会の各担当部会の取組が発表されました。各学校が自校の実態にあった取組を行うことで、体力の向上を図ってきました。

また、生涯スポーツの視点にたった部活動の活性化を図るために、「横須賀市運動部活動指導者研修会」を開催し、運動部活動モデル校である大楠中学校が実践報告を行いました。

中学校の取組発表



【中学校での取組】

新体力テストの市の結果は、昨年度まで多くの種目において、全国平均を下回る結果でした。

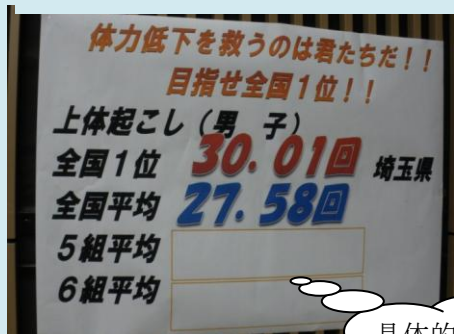
研究委託校でも同様で、特に、学年があがるにつれて女子の数値の低下が見られました。

そこで、中学生における運動能力と健康体力の向上を目指して、新体力テストの結果を分析し、身体活動量、食生活アンケート、身体測定を行いました。その中から見えてきたこととして、身体が成長している時期の運動は成長に寄与し、身体が成熟した後の運動は体力向上に寄与することが示されました。

新体力テストの実施については、取組方を見直し、具体的な目標値を示したり、生徒の集中力を高めるような声かけをしたりするなど、工夫を行うことで、体力テストの結果が向上し、さらに生徒たちの意欲につながりました。

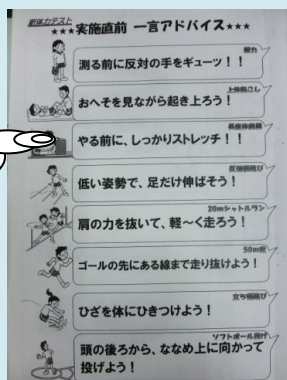
生活アンケートを実施したことで生徒自身も、睡眠、食事など、改めて生活習慣を見直すきっかけとなりました。

また、運動部活動モデル校では、生徒や先生を対象にしたメンタルトレーニングを実施したり、顧問が他の部活動の指導を見学したりするなどの取組を行い、運動部活動を通して、生徒と先生が、明るく元気になったことが報告されました。



具体的な目標値を示すことが有効

実施前の種目別の一言アドバイス



お互いの集中力を高める声かけが大切!!



横須賀の子どもの体力テストの結果が向上！

【小学校での取組】

研究委託校では、体力の低下が深刻な状況になってきていること、児童は運動不足であることを認識していないことなどが課題として明確になり、新体力テストの結果分析をもとに、県立保健福祉大学の笹田哲先生の指導から、肩甲骨とつま先を意識した運動に取り組みました。

児童は、なわとび運動が好きであることから、肩甲骨回し*¹やつま先ジャンプ*²などの基本セット、なわとびを使った種目運動、そして自由跳びをそれぞれ1分間ずつ、計3分間のなわとび運動に取り組みました。これらは、血流をよくし、体をほぐし、つま先のけりを意識した運動となります。このなわとび3分間運動を継続して実施した結果、身体の成長の影響を考慮しても、明らかに5月より12月の新体力テストの結果が大きく向上しました。

*1 両ひじを曲げて肩をさわりながら、両ひじを大きく回します。

*2 かかとをつかずに20秒間ジャンプします。

小学校の取組発表



ほとんどの種目で記録が向上！！

5月と12月の新体力テストの比較
※対象は、なわとび3分間運動を実施した児童80名

種目	5月	12月
握力	15.88	18.75 up!!
上体前屈	15.88	21.34 up!!
長座体前屈	15.88	21.34 up!!
反復横跳び	38.67	41.82 up!!
20mシャトルラン	48.97	56.08 up!!
50m走	9.08	8.92 up!!
立ち幅跳び	40.67	41.82 up!!
ソフトボール投げ	21.34	21.34 up!!

協力：神奈川県立保健福祉大学 鈴木志保子研究室

大人にも効果大で、体が軽くなります！



握力をつける縄巻取り
(種目運動の1つ)



基本セットの1つ
肩甲骨回し



1分間の自由跳び

【横須賀市児童生徒健康・体力向上推進委員会 担当部会の取組】

体力を向上させるために各学校が取り組んでいる実践例や体力テストの取組方の紹介、生活習慣の改善に向けた保健学習の活用やこれまでの研修講座の資料提供など、4つの担当部会がそれぞれの取組を発表しました。

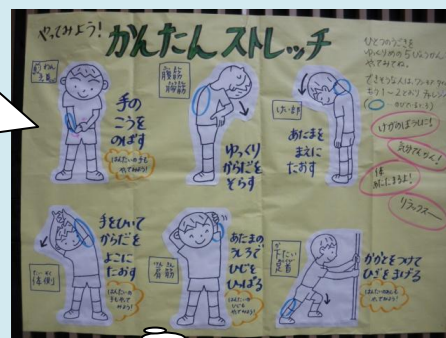
保健学習では、「体を動かすことの気持ちよさを体感することで、日常的に運動することが健康な生活につながっていること」を子どもが理解できるようにします。また、「病気を予防するためには、基本的な生活習慣を身に付け、規則正しいリズムで生活することが一番大切であること」を学んでいきます。「教室でできる！心&体ほぐしの運動例」や「集中力を高めるためにも体を動かそう」という取組例も紹介されました。

県立保健福祉大学の鈴木志保子先生の指導・助言



生活習慣は連鎖する。
良い連鎖を！！

何時に寝て何時に起きたかが、心をリラックスさせ、ストレスをためないことに大きく関係します。また、睡眠を十分にとることが、記憶を整理する働きにつながるなど、睡眠の大切さが話されました。



お子さんと一緒に
やってみませんか！

より良い学校とするために ～学校評価の取組～

学校では毎年、1年間の教育活動を振り返り、より良い学校とするための学校評価が行われています。学校評価は、学校教育法第42条に規定されています。ここでは、どのように学校評価が取り組まれているのか、ある学校の取組を追ってみました。

11月、12月

子どもたちと保護者へのアンケートを実施します。アンケートの内容は6月から検討し、子どもたちが学校生活の中でどのような思いを持っているのか、ということ把握する項目となっています。アンケートは回収後、業者へ集計業務を依頼します。（アンケート集計数が多いため、横須賀市では学校評価に関わる集計業務を予算化しています。）

1月

業者からアンケートの集計結果が届きます。集計結果については、全員がその結果について考える機会を設けるために、それぞれのアンケート項目に関係するグループに分かれて話し合いが行われ、分析をしていきます。分析結果は、学校評価担当がまとめていきます。

グループでの話し合いの様子



保護者の方は私たちが思っているよりも、もっと子どもたちの様子を知りたいと思っているのかもしれないですね。

子どもたちの良いところについても、もっと伝えていく必要があるのではないのでしょうか。

どうしてこうした結果になったのかしらね？

アンケート結果のグラフから、どうしてそのような結果になったのか、グループで話し合いが行われています。特に課題と捉えられる結果については、先生方自身の日常の取組について、様々な角度から分析をし、課題の要因を明らかにしています。

そして、その要因が明らかになると、それを改善するための方策を検討していきます。

子どもたちの思いや保護者の思いに応えるため、時間をかけた真剣な話し合いが行われています。

2月、3月

各グループで分析したことが、職員会議で共有され、学校全体で課題と改善策が明らかにされます。アンケートの集計結果や分析の結果については、学校便り等で保護者に伝えられます。

各学校では、保護者や子どもたちの意見を把握しながら、自校の教育活動について自己評価し、次年度の教育活動につなげていきます。学校評価をもとにより良い学校となるよう、先生方が一丸となって取り組んでいます。これからも各学校でお願いするアンケート等のご協力をお願いします。

※学校によっては、授業参観の際に頂いた感想などを資料としている場合もあります。

前号（第6号）の1ページ下段に「メラニン」とあるのは、「メラトニン」の誤りです。訂正してお詫びいたします。

《編集・発行責任者》 横須賀市教育委員会 教育総務部総務課 教育政策担当

〒238-8550 横須賀市小川町11番地

TEL：046-822-9709（編集担当直通） FAX：046-822-6849

E-mail：sc-real@city.yokosuka.kanagawa.jp

◇この冊子についてのご意見や感想をお寄せください。お待ちしております。

